



えのしろ

よっかいちしりつみえきたしょうがっこう
四日市市立三重北小学校

れいわ ねん がつふつかはっこう
令和2年6月2日発行



がっこうもくひょう
学校目標

こころゆたかにたくましく、ともに学び合う子どもの育成

さいかいご がっこう ようす 再開後の学校の様子

5月25日（月）から通常授業を開始して、2週間がたちました。登校時には、保護者や地域の方々に見守っていただき本当にありがとうございます。

学習面に関して言えば、「始業式のところに立ち返る」という認識に立ち、まず学びのルールを確認し、「聴く」を大切にすることから始めています。

また、感染予防もしながら学びの保障をどうするかを模索しながら取り組んでいるところです。

ペア学習は、机と机の間に探検ボードを置き、課題について話し合うような工夫をしています。

音楽科は、一松模倣型に机を配置し、一方向に向かい、マスク着用のまま歌ったり、カスタネットを打ったりしながら、曲に合わせてじゃんけんをしたりして楽しんでます。

「学んでE-net!」の授業も展開しています。自己評価の☆印のルールやチェックをすること、マイページを活用して学習状況を確認できることなどを学ばせていきたいと思えます。

体育科では、2M以上離れた相手とキャッチボールをしたり、ペアで棒の両端を持ってバランス崩しをしたりしながら、ソーシャルディスタンスを楽しむ遊びを展開しています。子どもたちは、「離れていたけど楽しかった。」と学びを振り返っていました。

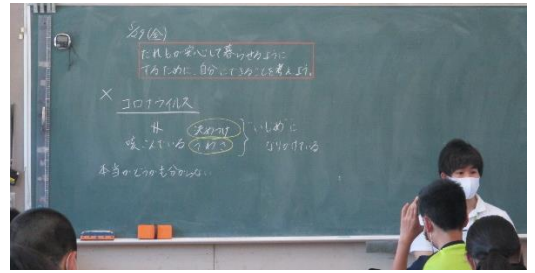
また、保健だより等を使って、コロナについて学習しています。低学年では、廊下に印をつけて、並んでいます。6年生では、テスト時に自分で「これくらい離れたらいいかな。」と自主的に席を離す姿も見られました。



コロナウイルスに感染した人や医療従事者やその家族の人たちに対する誹謗中傷があり、差別的な落書き事案もあります。こういったことをきっかけに、保健だよりや文部科学省のパンフレット、新聞等を活用しながら、コロナウイルスについて、正しく理解するとともに、人権的な観点から正しく対応できるように学んでいるところです。5年生は、昔から目に見えない疫病とどう向き合ってきたかを学んだあと、コロナウイルスにどう向き合うか話し合っていました。6年生では、アメリカ人の店員がコロナウイルスにかかっているという話から、その店員が転校してきたらという設定から差別や偏見をなくするために大切なこと、自分にできることは何かを考えていました。

～子どもたちの感想～

- 人の立場や気持ちを考えて行動していかないと差別が起きてしまう。だから相手の気持ちを理解して適切な言葉で話したり遊んだりする。差別をされていて、楽しいの？うれしいのか？と思いました。
- 根拠のない噂など差別を減らしていきたいです。
- コロナにかかっていないのに決めつけてしまうと相手も自分も気持ちがよくなるのではないし、相手も自分だったら嫌な気持ちになるのではと思います。
- ちがうかもしれないことを決めつけないようにするには、人には話さない、広めない。
- 正しい情報をきく。たとえ感染したとしても相手にしないなどすることはおかしい。



コロナ感染拡大防止にむけては、手洗いを徹底することが求められています。本校でも活動の前後には必ず石鹸を使い、しっかり流水するようにしています。

給食前には「手洗い音楽」の曲を流して約30秒間洗っています。また、おかわりをしなくてもよいように量を考えて配膳し、食ぶるときは、対面を避けて食べています。配膳後は、配膳台を消毒し、ビニールシートをかぶせています。鼻をかんだ後のティッシュや使い捨てのマスクを入れる専用の足ふみ式ゴミ箱を各教室に用意しました。



緊急非常事態宣言が解除されていて、三重県においては、1か月ぐらいい連続で感染者0が続いている状態ではありますが、北九州市のようなことがいつ起きるかわかりません。ご家庭におきましては、引き続き、毎日の検温をはじめ、手洗いの励行をお願いいたします。また、マスクや手洗い用のハンカチを持たせていただきますよう重ねてお願いいたします。

